

<福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ>

(日報：平成 25 年 11 月 16 日 午後 3 時現在)

平成 25 年 11 月 16 日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（廃止）

- 平成 23 年 3 月 12 日午後 3 時 36 分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- 平成 23 年 12 月 10 日午前 10 時 11 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 $2.5\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $1.9\text{m}^3/\text{時}$ です。
- 平成 23 年 4 月 7 日午前 1 時 31 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成 23 年 8 月 10 日午前 11 時 22 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 30 日午後 4 時 4 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 23 年 12 月 19 日午後 6 時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成 25 年 7 月 9 日午前 10 時 25 分、サブプレッションチェンバにおける残留水素の排出、およびサブプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、窒素ガス封入を開始しました。
- 平成 25 年 11 月 12 日より 12 月 9 日の間、原子炉格納容器への窒素封入の信頼性向上のため、 O_2 サンプリングラインを用いた封入ラインを構成し、段階的に流量を変更する試験を実施しております。

<11月12日午前9時51分から午前10時28分実施>

原子炉圧力容器（RPV）窒素封入量： $30\text{Nm}^3/\text{時}$ → $20\text{Nm}^3/\text{時}$ サブプレッションチェンバ（S/C）窒素封入量： $5\text{Nm}^3/\text{時}$ → $0\text{Nm}^3/\text{時}$ 原子炉格納容器（PCV）窒素封入量： $0\text{Nm}^3/\text{時}$ → $10\text{Nm}^3/\text{時}$ 原子炉格納容器（PCV）ガス管理システム排気流量： $21\text{Nm}^3/\text{時}$ （変更なし）

2号機（廃止）

- 平成 23 年 3 月 15 日午前 6 時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- 平成 23 年 9 月 14 日午後 2 時 59 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 $1.9\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $3.4\text{m}^3/\text{時}$ です。
- 平成 23 年 5 月 31 日午後 5 時 21 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 6 月 28 日午後 8 時 6 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成 23 年 10 月 28 日午後 6 時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- 平成 23 年 12 月 1 日午前 10 時 46 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 25 年 4 月 1 日午前 0 時、原子炉建屋排気設備の調整運転において異常が見られないことから、本格運用に移行しました。

3号機（廃止）

- 平成 23 年 3 月 14 日午前 11 時 1 分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。

- 平成 23 年 9 月 1 日午後 2 時 58 分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約 2 m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約 3.4m³/時です。
- 平成 23 年 6 月 30 日午後 7 時 47 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 14 日午後 8 時 1 分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- 平成 23 年 11 月 30 日午後 4 時 26 分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- 平成 24 年 3 月 14 日午後 7 時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

4号機（廃止）

- 平成 23 年 3 月 15 日午前 6 時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋 5 階屋根付近に損傷を確認しました。
- 平成 23 年 7 月 31 日午後 0 時 44 分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- 平成 25 年 8 月 27 日午後 5 時、原子炉ウェル、原子炉圧力容器、使用済燃料プール内のガレキ撤去および炉内機器の移動作業を開始しました。
- 使用済燃料プール内に保管している燃料について、燃料の取り出し準備が整ったことから、11 月 18 日より燃料の取り出し作業を開始する予定です。使用済燃料プール内の燃料は取り出し後、一旦、構内用輸送容器（キヤスク）により共用プール建屋内に移動し、共用プール建屋使用済燃料貯蔵プールに保管します。なお、燃料取り出し作業は平成 26 年末頃まで行う予定です。

5号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午前 5 時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 7 月 15 日午後 2 時 45 分、残留熱除去海水系ポンプ(B系)による残留熱除去系(B系)の運転を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 29 日午前 10 時 33 分、これまで機器ハッチを開口することにより行っていた原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器内より直接行うため、震災以降停止していた原子炉格納容器排気ファンを起動しました。その後、影響は確認されなかったことから平成 24 年 6 月 1 日午前 10 時 30 分、連続運転を開始しました。
- 平成 24 年 8 月 29 日午後 1 時、補機冷却海水系ポンプ（A）の復旧作業が完了し、本格運用を開始しました。これにより 3 台の補機冷却海水系ポンプが復旧しました。
- 残留熱除去海水系ポンプ（A）および（C）の復旧作業が完了し、平成 24 年 8 月 30 日午前 11 時 33 分、残留熱除去系（A）を起動しました。運転状態に異常がないことから、残留熱除去系（A）の本格運用を開始しました。これにより、本設の残留熱除去系はA系とB系の両系統が復旧しました。

6号機（定期検査で停止中）

- 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- 平成 23 年 3 月 19 日午後 10 時 14 分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- 平成 23 年 9 月 15 日午後 2 時 33 分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- 平成 24 年 5 月 15 日午後 2 時 20 分、これまで機器ハッチを開口することにより行っていた原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器内より直接行うため、震災以降停止していた原子炉格納容器排気ファンを起動しました。その後、影響は確認されなかったことから平成 24 年 5 月 18 日午後 2 時 12 分、連続運転を開始しました。

その他

- 平成 23 年 6 月 17 日午後 8 時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7 月 2 日午後 6 時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを經由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。その後、平成 25 年 7 月 5 日、原子炉注水系信頼性向上対策として、復水貯蔵タンク炉注水系による 1～3 号機原子炉注水の運用を開始しました。
- 平成 23 年 8 月 19 日午後 7 時 41 分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- 平成 23 年 10 月 7 日午後 2 時 6 分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6 号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、平成 23 年 10 月 28 日、1～4 号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- 所内共通ディーゼル発電機 (B) については、これまで復旧作業を進めてきましたが、平成 24 年 12 月 26 日午前 0 時、所内共通ディーゼル発電機 (A) に加えて、保安規定第 131 条に定める異常時の措置の活動を行うために必要な所内共通ディーゼル発電機として運用開始しました。
- 平成 25 年 3 月 30 日午前 9 時 56 分、多核種除去設備 (ALPS) の 3 系統 (A～C) のうち A 系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始しました。
6 月 13 日午前 9 時 49 分、多核種除去設備 (ALPS) B 系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始しました。
6 月 15 日午後 11 時頃、多核種除去設備 (ALPS) A 系のバッチ処理タンク (2A) において、当社社員が結露状況を確認した際に、当該タンク下の漏えい水受けパン内に、変色 (茶色) した水の滴下跡があることを発見したことから、6 月 16 日午後 11 時 20 分に A 系を停止しました。
8 月 8 日午後 0 時 55 分、A 系のバッチ処理タンクからの水漏れに関する対策を B 系でも実施するため、B 系を停止しました。
9 月 27 日午前 0 時 4 分、多核種除去設備 (ALPS) C 系については、再発防止対策、水平展開および腐食発生・促進リスクの低減処置が完了したことから、ホット試験を開始しました。
10 月 28 日午前 10 時 8 分、多核種除去設備 (ALPS) A 系については、再発防止対策、水平展開および腐食発生・促進リスクの低減処置が完了したことから、ホット試験を再開しました。
11 月 3 日午前 5 時 8 分、多核種除去設備 (ALPS) C 系については、腐食対策有効性確認のため、運転を停止しました。
11 月 6 日午前 8 時 40 分、多核種除去設備 (ALPS) A 系については、10 月 4 日に C 系で発生した「工程異常」の対策として制御系の改造を行うため、運転を停止しました。11 月 8 日午後 2 時 1 分、改造が完了したことから、運転を再開しました。
- 平成 25 年 7 月 1 日、地下貯水槽の汚染水は全て移送を終了していますが、拡散防止対策およびサンプリング (地下貯水槽 No. 1～7 のドレン孔水、地下貯水槽 No. 1～4, 6, 7 の漏えい検知孔水、地下貯水槽観測孔、地下水バイパス調査孔、地下水バイパス揚水井 No. 1～4、海側観測孔) は継続実施中です。
 - <拡散防止対策>
地下貯水槽 No. 1～3 の漏えい検知孔内に漏えいした水を仮設地上タンクへ、地下貯水槽 No. 1, 2 のドレン孔内に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ移送する処置を適宜実施中です。
 - <サンプリング実績>
前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されておりません。
- 1～4 号機タービン建屋東側に観測孔を設置し地下水を採取、分析しており、平成 25 年 6 月 19 日、1, 2 号機間の観測孔において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出されたことを公表し、監視を強化するとともに、1, 2 号機タービン建屋東側に設置したウェルポイントおよび集水ピット (南) から地下水をくみ上げ中です。
 - <最新の地下水移送実績>
9 月 7 日からウェルポイントおよび集水ピット (南) 地下水を 2 号機タービン建屋へ移送中です。

<サンプリング実績>

前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されておりません。

- H4エリアIグループ No. 5タンクからの漏えいを受け、同様の構造のタンクの監視、および詳細な調査を継続実施中です。

<最新のパトロール結果>

- 11月15日午前8時50分頃、汚染水タンクパトロールにおいて、G6南エリアのG6-C3タンク、下2段目のフランジ部より滴下があることを協力企業作業員が発見しました。現場の確認を行ったところ、タンク下側2段目の縦継ぎ手フランジのボルト部（14本中下から9本目）より水がにじんでいることを確認しました。その後、G6-C3タンク下側2段目の縦継ぎ手フランジのボルト（漏えい箇所のボルトを中心に上下3箇所計7箇所）の増し締めを実施し、滴下が停止したことを確認しました。当該タンクについて、タンク上部より水位の測定を実施したところ、タンク天板より52cmの位置にあり、隣接しているG6-C2タンクと同じ値であることを確認しました。当該滴下箇所の線量当量率の測定結果は以下の通りです。

- G6-C3タンク（5cm距離）35mSv/時（ $\gamma + \beta$ 線（70 μ m線量当量率））
- G6-C3タンク（5cm距離）0.03mSv/時（ γ 線）

G6-C3タンクフランジ部からの滴下について、当該タンクの設置されている、G6南タンクエリア堰内溜まり水およびG6-C3タンク内水の核種分析結果は以下の通りです。

<G6南タンクエリア堰内溜まり水>

- セシウム134：検出限界値未満（検出限界値：13 Bq/L）
- セシウム137：検出限界値未満（検出限界値：18 Bq/L）
- 全ベータ：5200 Bq/L

<G6-C3タンク内水>

- セシウム134： 1.5×10^3 Bq/L
- セシウム137： 2.7×10^3 Bq/L
- コバルト60： 4.5×10^2 Bq/L
- アンチモン125： 2.0×10^4 Bq/L
- 全ベータ： 7.8×10^7 Bq/L

当該タンク内水の全ベータ放射能濃度と堰内溜まり水の全ベータ放射能濃度が5,200 Bq/Lであり、当該タンクエリア堰内水量が約 1.63×10^5 リットルであることから、当該タンクからの漏えい量については、約11リットルと評価しました。

同日午後0時50分頃、G6タンクエリアを確認中の原子力保安検査官が、G6南タンクエリア堰ドレン弁（G6-C8タンクの北側）近傍ににじみがあり、ドレン弁出口に若干の水溜まりがあることを発見しました。

同日午後3時59分から午後4時50分にかけて、当該エリア堰内溜まり水をG3西エリアD群タンクへ移送しました。残水等については、今後適宜移送する予定です。

なお、その他のタンクについては、新たな高線量当量率箇所（ $\beta + \gamma$ 線（70 μ m線量当量率））は確認されませんでした。また、堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により引き続き線量当量率は低い状態となっております。さらに、目視点検によりG6-C3以外のタンクに漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認しました。なお、サーモグラフィーによる水位確認（11月14日撮影分の分析結果）によりタンク水位に異常がないことを確認しました。

- H4エリアIグループ No. 5タンクからの漏えい、およびB南エリアタンク（B-A5）上部天板部からの滴下を受け、福島第一南放水口付近、福島第一構内排水路、H4エリアタンク周辺および地下水バイパス揚水井No. 5～12のサンプリングを継続実施中です。

<最新のサンプリング実績>

前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されておりません。

- 平成25年11月6日午前9時27分、3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋〔高温焼却炉建屋〕）へ溜まり水の移送を開始しました。
- 1～4号機建屋に隣接している井戸（サブドレンピット）の浄化試験をした結果、ピット内の溜まり水から放射性物質が検出されており、その流入経路としてフォールアウトの可能性があるので、新たに1～4号機建屋周辺に観測井を設置し、フォールアウトの影響について確

認することとしています。

- 平成25年11月14日午前10時53分、2、3号機海水配管トレンチ内の滞留水の放射能濃度を低減するモバイル式処理設備のうち、2号機側のモバイル式処理設備の処理（連続）運転を開始しました。11月15日午後0時35分、3号機側のモバイル式処理設備の処理（連続）運転を開始しました。
- 平成25年11月16日午前8時10分頃、3号機原子炉建屋5階中央部近傍より、湯気が発生していることをカメラにて確認しました。同日午前8時25分時点のプラント状況、モニタリングポストの指示値等に異常は確認されておりません（午前8時10分時点の気象データは、気温11℃、湿度77%）。
- 平成25年11月12日午前10時15分から11月16日午前9時34分まで、2号機タービン建屋地下から3号機タービン建屋地下へ溜まり水の移送を実施しました。

以 上